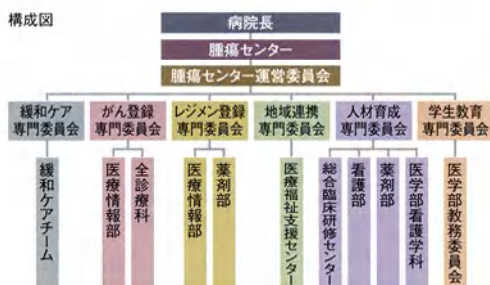


がんをトータルにケアし、がん専門医療人を育成する「腫瘍センター」を開設

腫瘍センター センター長 薬師神芳洋 医師



厚生労働省では、全国どこでも質の高いがん医療を受けることができることを目的として、各都道府県ごとに数カ所の病院を「がん診療連携拠点病院」として指定。当院も現在体制を整えており、昨年12月に「腫瘍センター」を新たに設置しました。現在、外来化学療法室のベッドは8床あり、1日に20人程度の治療が可能です。外来化学療法室では長い時間ベッドに拘束されるので、なるべく快適に過ごしていただけるように、設備や環境を整えています。がん患者様はこれまで、胃や肺、泌尿器など、腫瘍ができた臓器ごとの診療科で治療を受けていました。センターの設置を機に、診療科にとられない横断的な治療を目指します。また、将来的には訪問看護や、在宅でのがんの

治療やケアができるようにしたいと思っています。

腫瘍センター内に「がん診療連携拠点病院」として必要な6つの専門委員会を設置しました。肉体的のみならず精神的なサポートもする「緩和ケア」、患者様の情報を管理、解析する「がん登録」、抗がん剤の組み合わせや量を担当医だけでなく薬剤師、看護師などを含め、他方向からチェックする「レジメン登録」などです。県内の他の指定病院とも連携を図ります。他の病院と違うのは、人材育成、学生教育の専門委員会を置くこと。学生や医師・薬剤師・看護師が数多く在籍する当院だからできることは、がん専門医療人を育成することです。この目標に向けて努力していこうと思っています。

一刻を争う急患にも対応できる「心臓血管撮影室」とシステムを構築

冠動脈疾患集中治療部 部長 岡山英樹 医師



冠動脈疾患集中治療部

急性冠症候群（不安定狭心症や急性心筋梗塞）を中心とした心疾患患者の治療を行う部門です。経皮的冠動脈形成術による冠血行再建、大動脈バルーンパンピングや経皮的人工心肺補助装置等の技術により重症心疾患患者の救命に当たっております。

◎循環器疾患の急患発生時のホットライン

☎070-5515-6091（直通）

平成18年12月、当院の2号館1階に新しく「心臓血管撮影室」をオープンしました。撮影室に設置した「循環器診断・治療システム」は、循環器系に疾患のある患者様をX線で撮影しながら診断、治療を行う最新の医療システムです。X線画像は以前よりもクリアになり、血管の細かい枝まで見えます。そのため複雑病変の治療もしやすくなりました。治療時間が短縮でき、患者様が受けるX線の量も少なくて済みます。両室ペースング、植え込み型除細動器の手術を考慮し、HEPAフィルター付の空調システムを取り入れました。このシステムの導入と同時に、検査や手術の動画を保存、管理するシステムを導入し、院内の通信基盤も整えました。動画は手術中にカンファレンス室などでモニタできるのはもちろん、院内カルテとリンクし、院内ネットワークを通じてどこにいてもデータを取り出し、見ることができる

ので、機動性、利便性が向上しています。

撮影室は救急外来入り口のすぐ横に設置。一刻を争う循環器の診療ですので急患の動線を考え、救急外来到着後、即撮影室へ入れるようになっています。集中治療室や冠疾患集中治療室に繋がるエレベータもすぐ近くにあり、重症な患者様を移動する動線が非常に良くなりました。入り口のドアは大きく、大きな補助循環システムをつけた患者様でも入室、退室がスムーズにできるようになっています。心臓カテーテル治療は、患者様の意識があるままに行いますから、少しでもリラックスしていただけるように、撮影室はリビングルームをコンセプトに設計しました。床や内装の一部を木目調にし、リラクゼーション系の音楽を流すなど工夫しています。今後はこの場所で、重症例を含め、より多くの患者様を救いたいと思っています。